

科目名			論理国語		学年	普通科			必／選	単位数	
					3	アドバンス		キャリア	スポーツ	必	3
						国文	理進				
						○	○	○	○		
学 習 目 標			言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。								
			(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。								
			(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。								
			(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								
使 用 教 材			教科書：「新編論理国語」（大修館書店）								
			副教材：「プレミアムカラー 国語便覧」（数研出版） 「書いて覚える漢字練習ノート」（啓隆社）								
評 価			評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題（発表、レポート、意見文）ノート、ふり返しシートで評価する。							
				評価観点の趣旨	a	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。				
			b		思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。					
			c		主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。					
			上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。								
期	月	時数	学習項目・単元		学習内容			評価方法			
			a	b	c						
1学期	4 5月	10 8	・文章を通して自分の思いや考えを客観視する【読むこと】 ・自分を客観的に見つめよう【書くこと】 ・自己推薦書を書こう【書くこと】	・「探究する力」についての筆者の主張を読み取る。 ・AIと人間の違いを的確にとらえる。 ・筆者が「今の時代」をどのようにとらえているかを整理する。（題材：探求する力） ・筆者の述べる「賢い」の定義と、「賢くなる」方法を読み取る。（題材：補助線を引きながら考える） ・自分を客観視し、長所に言い換えてみる。 ・自分のアピールポイントを明確にし、根拠をそろえて相手に的確に伝わる文章を書く。			中間 考査 小テ スト	中間 考査 発表 レポ ート	発表 作文 ノート ふり返りシ ート		

1 学 期	6 7 月	18 10	・主張と根拠の関係を読み取る【読むこと】 ・根拠を吟味しよう【書くこと】	・「和」という言葉がもつ二つの意味を主張・根拠の考え方をを用いて的確にとらえる。 ・日本の文化と西洋の文化の比較を通して、本文読解の理解を深める。(和の思想、間の文化) ・美についての筆者の考えに興味をもち、筆者の主張を支える根拠を読み取る。(ミロのヴィーナス) ・主張とその根拠を吟味し、批判的に情報を検討したうえで、レポートを作成する。	期末 考查 小テ スト	期末 考查 発表 レポ ート	発表 意見 文 ノー ト ふり 返し シー ト
2 学 期	9 10 月	18 5 8	・「比較」の視点で複数の文章を読み分析しよう【読むこと】 ・物事の利点・欠点を「比較」しよう【書くこと】 ・統計資料を読んで書く【書くこと】	・筆者の仮説について、的確にとらえる。(ロボットに心はあるか) ・「クオリア」という概念の意味を理解し、それについての筆者独特の主張を読み取る。(クオリアと心) ・特定のテーマについての複数の意見文を比較・分析し、考えを深める。 ・複数の意見文を読んで考えたことを、論点を明確にして書く。 ・統計資料から、小論文で取り上げる論点を的確に見だし、自分の主張を論理的に展開する。	中間 考查 小テ スト	中間 考查 発表 意見 文	発表 レポ ート ノー ト ふり返 りシー ト
2 学 期	11 12 月	15 9	・私たちの「未来」についての問題提起と主張を読み取る【読むこと】 ・現代の諸課題について報告をまとめる【書くこと】	・政治を自身の身近な問題と関連させて考え、本文の要旨を把握する。(政治の本質) ・現代の日本社会が抱える課題に興味をもち、人口減少社会についての向き合い方について、理解を深める。(人口減少社会の到来) ・本文中の数値や地図を的確に読み取り、筆者の主張をつかむ。(未来の地図帳) ・上記で扱ったテーマについて報告する内容を設定し、目的に応じて必要な情報を集める。 ・集めた情報を整理し、説得力のある報告をまとめる。	期末 考查 小テ スト	期末 考查 発表 意見 文	発表 作文 ノー ト ふり返 りシー ト
3 学 期	1 2 月	4	・身近な課題に取り組む、社会に提言しよう【書くこと】	・2年間の論理国語で学んだスキルを活かして、自らテーマを設定し、適切な情報を集めたうえで自分の意見をまとめる。	学年 末考 査	学年 末考 査 発表	発表 ノー ト ふり返 りシー ト

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業は、教科書を中心に進め、様々な学習活動を通じて、理解を深める。単元の目標や各授業のめあてを示し、授業内での活動から理解を評価する。また、ノートやプリント等の提出物の内容を評価する。さらに、理解の確認のため、定期考査や小テストをおこない、評価に加える。

科目名	文学国語	学年	普通科				必／選	単位数
		3	アドバンス		キャリア	スポーツ	必	2
			国文	理進				
			○	○	○	○		
学 習 目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。							
使 用 教 材	教科書：「新編文学国語」（大修館書店） 副教材：「プレミアムカラー 国語便覧」（数研出版）							
評 価	評価法	定期考査、小テスト（定期）、パフォーマンス課題（発表、レポート、作文）、ノート、ふり返りシートで評価する。						
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。				
		b	思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。				
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。				
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。							
期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法			
					a	b	c	
1学期	4 5月	12	・書き手と自らの考え方を比較しよう【読むこと】	・古典作品に表れている作者の感性をとらえ、現代の人々の感性と比較する。（はしたなきもの） ・筆者の考える夏の月の良さをとらえ、それを踏まえて考え方を深める。（夏の月） ・引用された作品を読み、解釈を深める。 ・作品の概要を知る。	中間考査 小テスト	中間考査 発表作文	発表作文 ノート ふり返りシート	
1学期	6 7月	10 6	・描写をもとに解釈しよう【読むこと】 ・俳句を作ろう【書	・優れた表現に触れ、内容について解釈する。 ・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。（こころ） ・俳句の表現技法を知り、情景を「取り合わせ」	期末考査 小テスト	期末考査 発表	発表 意見文 ノート ふり返	

			くこと】	の方法で表現する。 ・自分が表現したい情景について、歳時記などを参考に情報を収集する。	ト	意見文	りシート
2 学 期	9 10 月	8	・「光源氏」を当時と現代で評論してみよう【読むこと】	・古典の文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ・光源氏の心情を、具体的な描写をもとに的確にとらえる。また、光源氏の言動について、当時の背景をもとに解釈する。(桐壺)	中間考 査	中間 考査	発表 レポー ト
		8	・「俳句・短歌」の感動ポイントを紹介しよう【読むこと】	・筆者が考える、短歌が人を感動させるための方法を読み取る。(感覚と驚異) ・文章中に登場する作品について様々な資料を調べ、その成果を短いレポートにまとめる。	小テス ト	発表 レポ ート	ノート ふり返 りシー ト
2 学 期	11 12 月	6	・物語と言葉の由来のつながりを説明しよう【読むこと】	・漢文の表現に着目し、項王の心情を読み取る。 ・「四面楚歌」という四字熟語の成立事情を理解し、短い文章で説明する。(四面楚歌)	期末考 査	期末 考査	発表 作文 ノート
		2	・ショートショートの魅力について考えよう【読むこと】	・様々な小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。(タイムリミット、書斎)	小テス ト	発表 作文	ふり返 りシー ト
		9	・読み手を夢中にするショートショートを書こう【書くこと】	・発想を広げ、起承転結パターンに従ってショートショートを書く。 ・様々な作品を参考に、構成や展開を工夫する。			
3 学 期	1 2 月	9	・作品を演劇化してみよう【読むこと】	・登場人物の描写から、場面ごとの心情の変化を読み取る。 ・登場人物の考え方をとらえ、自分の考えと比較しながら自分の考えを広げる。(待合室) ・演劇にするとした場合には、どのように読めばいいのかについて考え、他者と共有する。	学年末 考査	学年 末考 査	発表 意見文 ノート
					小テス ト	発表 意見 文	ふり返 りシー ト
担当者からのメッセージ（学習方法など）							
授業は、教科書を中心に進め、様々な学習活動を通じて、理解を深める。単元の目標や各授業のめあてを示し、授業内での活動から理解を評価する。また、ノートやプリント等の提出物の内容を評価する。さらに、理解の確認のため、定期考査や小テストをおこない、評価に加える。							

科目名	国語演習		学年	普通科			必／選	単位数	
			3	アドバンス		キャリア	スポーツ	選	2
				国文	理進				
						○			
学 習 目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。								
使 用 教 材	使用図書：「国語常識・作文ステップアップ」（数研出版） 副教材：新聞記事、各種メディア等								
評 価	評価法	定期考査、小テスト（定期）、パフォーマンス課題（発表、レポート、作文）、ノート、ふり返りシートで評価する。							
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な文法や故事成語、外来語、略称などの教養を身に付け、それらを正しく適切に活用している。					
		b	思考・判断・表現	現代社会において獲得した情報を的確に判断し、状況に応じた言葉遣いで、他者と言葉を交わしながら、自らの意見をより高めている。					
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。					
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（１～５の５段階）にまとめます。								
期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法				
					a	b	c		
1学期	4 5月	15	「自分」を上 手く相手に伝える（自己アピール・話し方）【話すこと・聞くこと】	・「メモを作る」作業を通して、自己アピール文を作成する。書いた自己アピールを推敲する。 ・敬語の種類や使い方を学習し、実生活を想定した場面で適切に使用する。	小テスト	発表意見文	発表作文 ノート ふり返りシート		
1学期	6 7月	16	実生活に生きる作文力を身に着ける（志望動機、日本語の使い方）【書くこと】	・志望動機の作成や履歴書の作成を通して、実際の面接等で活用できる作文力を身に着ける。 ・「誤文訂正」問題に取り組み、正しい日本語の使用に関する意識を磨く。 ・文章読解を通して、指示語を指す内容を正しく読み取る。	期末考査 小テスト	期末考査 発表意見文	発表意見文 ノート ふり返りシート		
2学期	9 10月	15	「言葉」への感覚を磨こう【書くこと】	・ことわざや慣用句、故事成語の意味を学習し、正しい場面で使用する。 ・自分の名前に使われている漢字について調べ、由来や意味を紹介する。	小テスト	発表意見文	発表レポート ノート		

				・手紙文の正しい書き方を身につける。			ふり返りシート
2 学期	11 12 月	14	身の回りの出来事について意見を交わし合おう【話す聞くこと】	・「最近のニュース」について情報を集め、自分が興味を持った点や感じたことを伝え合う。 ・文章読解を通して、正しい接続詞の使い方を身につける。	期末 考 査 小テ ス ト	期末 考 査 発 表 レ ポ ー ト	発 表 作 文 ノ ー ト ふ り 返 り シ ー ト
3 学期	1 2 月	10	これまでの自分を客観的に記録しよう【書くこと】	・高校生活を振り返り、「自分史」を作成する。		発 表 レ ポ ー ト	発 表 意 見 文 ノ ー ト ふ り 返 り シ ー ト
担当者からのメッセージ（学習方法など）							
授業は、使用図書を中心に進め、様々な学習活動を通じて、理解を深める。単元の目標や各授業のめあてを示し、授業内での活動から理解を評価する。また、ノートやプリント等の提出物の内容を評価する。さらに、理解の確認のため、定期考査や小テストをおこない、評価に加える。また、適宜ニュース記事の活用やグループワークを行うので積極的に参加すること。							

令和 7 年度 国語科